

## 人口ビジョン

### ■ 基本的視点

- ① 町外へ若者が流出している「流出の人の流れ」を変える
- ② Uターン・Jターン・Iターンなどを促進し、壮年層の「流入の人の流れ」を拡大する
- ③ 移住のきっかけとなる「交流機会」を拡充する
- ④ 出生率向上のため、「阻害要因の除去」に取り組む
- ⑤ 定住・移住を促す「総合的な暮らしの環境の向上」に取り組む
- ⑥ 長期的・総合的な視点から「有効な施策を迅速に」実施する

### ■ 将来人口の目標

- 短期的目標：平成32(2020)年  
東日本大震災復興事業の進捗に伴う人口流入の動きを加速しながら、「交流・定住促進事業」を積極的に推進し、現在人口の維持を目指します。
- 中期的目標：平成37(2025)年  
短期期間に展開する「交流・定住促進事業」を開花させ、人口規模34,000人を維持し続けることを目指します。
- 長期的目標：平成72(2060)年  
人口規模の維持及び人口構造の若返りを目指します。

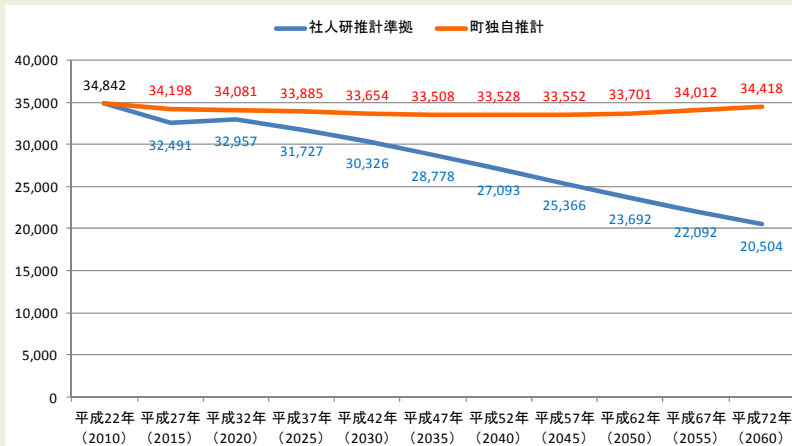
### ■ 将来人口展望のための前提条件

- ① 合計特殊出生率
  - 平成32(2020)年に1.6程度、平成42(2030)年に1.8程度、平成52(2040)年に人口置換水準※1.207を達成すると仮定  
※1:人口置換水準…人口を長期的に一定に保てる水準。現在の日本の値は2.07。(平成24年、国立社会保障・人口問題研究所)
- ② 純移動率
  - 「0-4歳」「5-9歳」「10-14歳」及び「30-34歳」以上の各階層については、純移動率がプラスで推移すると仮定
  - 「15-19歳」「20-24歳」「25-29歳」の各階層については、マイナス幅を縮小していくと仮定



### ■ 長期的見通し

現在人口 34,000 人の維持を目標とする



## 総合戦略 (平成27~31年度の5年間)

### 【将来都市像】

山と川、里と海を  
(時の流れ)  
人と時代で  
つなぐまち



### 【基本理念】

— 定住人口 34,000 人の維持に向けて —  
また来たくなるまち・ずっと住みたくなるまち わたり  
『さよなら』 Good bye でなく 『またね』 See you といえるまち

### 【まちづくりのストーリー】

- いつでも行き来できる交通環境をつくる
- 町内外に誇れるまちの魅力をつくる
- ずっと住みたくなる基盤をつくる

### 【住む人の定住促進】 【訪れる人の定住促進】

“もっと便利”  
“ぐっと愛着”  
“ずっと定住”

“いつでも交流”  
“いきいき滞在”  
“いつしか定住”

### 基本目標 1 産業（観光）振興

観光を中心として産業振興を図り、安定した雇用と活力あるまちを創る

【数値目標】 町内事業所の従業員数  
平成27年 11,523人  
平成31年 11,600人



- ① 互理農水産物のブランディングの確立
- ② 6次化に向けた加工・販売のマッチングへの支援
- ③ 農業関係機関連携による新規作物の導入とその確立
- ④ 農業の協業化・組織化・法人化のモデルづくり
- ⑤ 観光イベントによる地域活性化
- ⑥ インバウンドに向けた受入れ環境の整備
- ⑦ 体験型観光拠点の開発整備
- ⑧ 商業機能の充実によるにぎわい創出支援
- ⑨ “農業・漁業”による雇用の創出
- ⑩ 若い世代の就農・就漁者への支援
- ⑪ 産学官連携による新事業開発・起業支援
- ⑫ 若者から高齢者までの就業支援

| 重要業績評価指標(KPI)   | 現況値             | 目標値(平成31年) |
|-----------------|-----------------|------------|
| 第1次産業における新規就業者数 | —               | 4人         |
| 農業法人設立数         | 4社/年<br>(平成27年) | 7社/年       |
| 現地ガイド養成講座参加者数   | —               | 30人/年      |
| 空き店舗の活用数        | 7件<br>(平成11年~)  | 通算15件      |
| シルバー人材センター会員数   | 323人<br>(平成27年) | 350人       |

### 基本目標 2 交流人口拡大

交流人口の拡大を図り、それが定住促進につながるまちを創る

【数値目標】 観光客入込数  
平成26年 495,715人/年  
平成31年 900,000人/年  
(震災前の水準)



- ① 観光イベントを活用した交流の充実
- ② 地域資源(ひと・もの・景観)発掘による“まち魅力”の構築
- ③ 阿武隈高地の遊歩道の周辺魅力の掘り起こしと周辺整備
- ④ 広域連携によるスポーツイベントの開催
- ⑤ 宿泊を中心とした滞在型交流機能の整備
- ⑥ “歩けるわたり”スムーズ案内事業
- ⑦ 観光プロモーションの実施
- ⑧ 移住・定住化促進事業の実施
- ⑨ 公共ゾーンのふれあい空間整備

| 重要業績評価指標(KPI)          | 現況値                      | 目標値(平成31年)               |
|------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 鳥の海SIC乗降車数             | 1,600台/日<br>(NEXCO東日本推計) | 2,000台/日                 |
| 主要イベントへの参加者数           | 80,000人/年<br>(平成27年)     | 100,000人/年               |
| 互理インフォメーションシステムへのアクセス数 | —                        | 280,000件/年               |
| 町公式ホームページへのアクセス数       | 1,946,657件/年<br>(平成27年)  | 2,400,000件/年             |
| JR互理駅の乗車人員             | 2,195人/日(平均)<br>(平成26年度) | 2,300人/日(平均)<br>(平成31年度) |
| 移住相談件数                 | 0件/年<br>(平成26年度)         | 20件/年                    |
| 庁舎交流スペース一日平均利用者数       | —                        | 115人/日                   |

### 基本目標 3 子育て支援

若い世代が定住し、結婚・出産・子育てを安心してできるまちを創る

【数値目標】 出生数  
平成27年 214人/年  
平成31年 250人/年  
(震災前の水準)

- ① ニーズに対応した保育施設の確保・整備
- ② 集団感染のリスク軽減による安定就労
- ③ 不妊治療への支援
- ④ 質の高い幼児教育(幼稚園)・保育(保育所)・地域子育て支援・家庭教育支援の推進
- ⑤ 次代の親の育成と参画
- ⑥ 魅力ある出会いのきっかけづくり



| 重要業績評価指標(KPI)         | 現況値             | 目標値(平成31年) |
|-----------------------|-----------------|------------|
| 保育所入所待機児童数            | 139人<br>(平成27年) | 0人         |
| ファミリー・サポート・センター利用会員数  | 45人<br>(平成27年)  | 100人       |
| ファミリー・サポート・センター協力会員数  | 43人<br>(平成27年)  | 100人       |
| 不妊治療費補助制度への申請件数       | —               | 25件/年      |
| 放課後子ども教室への登録児童数       | 29人<br>(平成27年)  | 200人       |
| 出会いの場からの新規カップル(婚姻)誕生数 | —               | 通算3組       |